

2019年度  
世 界 史  
(問 題)

〈H31130018〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
  - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、試験開始後、解答用紙の氏名欄に氏名を正確に丁寧に記入すること。
  - (2) マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い ○ 悪い ○ 悪い
マークを消す時	○ 良い ○ 悪い ○ 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

複合国家体制は、君主などの主権者が、法的・政治的・文化的に異なる複数の国家を同時に支配する体制であり、中世から近世のヨーロッパで幅広くみられた。14世紀の北歐では、(A)デンマーク・スウェーデン・ノルウェーの同君連合であるカルマル同盟が成立し、1523年まで存続した。また、東ヨーロッパでは(B)ポーランド＝リトアニア王国が成立した。

16世紀からスペインを支配したハプスブルク家のスペイン王国も複合国家の一例であり、スペイン国王が、ナポリやシチリア、(C)ネーデルラントなどの諸地域の統治者を兼ねた。(D)1700年にスペインのハプスブルク家が断絶すると、スペイン王位継承をめぐる(E)スペイン継承戦争が起こり、1713年に結ばれた(F)ユトレヒト条約で(G)ブルボン家による継承が認められた。

ブリテン諸島では、16世紀中にテューダー朝のもとで中央集権化を進めたイングランド王権が中心となってウェールズやアイルランドを統治する国家体制ができあがった。(H)17世紀にテューダー朝が断絶すると、(I)スコットランドのステュアート家出身のジェームズ1世が即位し、イングランドはスコットランドと同君連合となった。また、名誉革命後の1689年にウィリアム3世とメアリ2世が即位すると、イングランド・スコットランド・アイルランド・(J)オランダの同君連合ができあがった。

問1 下線部(A)について、デンマーク・スウェーデン・ノルウェーの歴史に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選べ。

- デンマークの支配下にあったノルウェーは、1814年のウィーン会議の結果、ロシア領となった。
- スウェーデンは、1648年のウエストファリア条約で西ポンメルンを獲得した。
- 1618年に三十年戦争が起きると、デンマークは新教側で、スウェーデンは旧教側でこれに介入した。
- デンマークとスウェーデンは、1780年にイギリスの対米海上封鎖に対して結成された武装中立同盟に参加した。

問2 下線部(B)について、ポーランドに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- カジミェシュ大王は、1410年のタンネンベルクの戦いでドイツ騎士団に勝利した。
- 1772年のオーストリアとプロイセンによるポーランド分割で、ポーランド王国は消滅した。
- ポーランドの軍人コシユシコは、1794年に独立を目指す民族蜂起軍を指導した。
- ポーランド国王は、1572年まで、貴族を中心とする身分制議会における選挙によって選ばれた。

問3 下線部(C)について、スペインおよびオーストリアのハプスブルク家出身の統治者に関する次の記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- オーストリアのマリア＝テレジアは、1763年のフベルトゥスブルク条約で、プロイセンによるシュレジエン領有を認めた。
- スペインのカルロス1世は、カール5世として神聖ローマ皇帝に即位した後、1529年のシュパイアー帝国議会でルター派を公認した。
- オーストリアのヨーゼフ2世は、1781年、宗教寛容令を發布して、プロテスタントやギリシア正教徒に信教の自由を認めた。
- スペインのフェリペ2世は、1580年からポルトガルの王位を兼ね、ポルトガルの海外植民地も支配下においた。

問4 下線部(D)について、ネーデルラントで起きたオランダ独立戦争中の出来事を年代順に正しく並べたものを1つ選べ。

- ① スペイン軍のアントウェルペン占領
  - ② ネーデルラント連邦共和国独立宣言
  - ③ ユトレヒト同盟の結成
  - ④ スペインとの休戦条約締結
  - ⑤ オランダ東インド会社の設立
- a. ①—②—③—④—⑤
  - b. ②—①—③—⑤—④
  - c. ③—①—②—④—⑤
  - d. ③—②—①—⑤—④

問5 下線部(E)について、1700年に世界で起こった出来事を次から1つ選べ。

- a. 三藩の乱の開始
- b. ネルチンスク条約の締結
- c. 北方戦争の開始
- d. キャフタ条約の締結

問6 下線部(F)について、ユトレヒト条約でイギリスがスペインから獲得した領土を次から1つ選べ。

- a. ミノルカ島
- b. ニューファンドランド
- c. アカディア
- d. ハドソン湾地方

問7 下線部(G)について、ブルボン家出身の統治者に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. アンリ4世は、即位後、カルヴァン派に改宗してナントの王令を發布した。
- b. ルイ14世は、豪壮華麗なロココ様式のヴェルサイユ宮殿を造営させた。
- c. ルイ15世は、オーストリア継承戦争で、オーストリアと同盟してプロイセンと戦った。
- d. ルイ16世によって財務総監に任命されたテュルゴーは、財政改革を試みた。

問8 下線部(H)について、次の17世紀イギリスで活躍した人物と作品名の組み合わせのうち、適切なものを1つ選べ。

- a. ニュートン —— 『プリンキピア』
- b. ハーヴェー —— 『新オルガヌム』
- c. フランシス=ベーコン —— 『方法叙説』
- d. ロック —— 『リヴァイアサン』

問9 下線部(I)について、次のうちスコットランド出身で宗教改革運動をおこなった人物を1人選べ。

- a. ツヴィングリ
- b. ボーダン
- c. ノックス
- d. トマス=モア

問10 下線部 (J) について、オランダの海外進出に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. オランダ東インド会社は、マカオに要塞を築いて東南アジア交易の根拠地とした。
- b. 第1次イギリス＝オランダ戦争の結果、アメリカのオランダ植民地がイギリスに割譲された。
- c. 清の康熙帝は、台湾に拠点を築いていたオランダ人を駆逐し、台湾を支配下においた。
- d. アンボイナ島のオランダ商館員が、競合するイギリス商館員を虐殺する事件が起きた。

II 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

近世の西アジア・中央アジア地域におけるイスラーム国家は、しばしば異民族に対して独自の寛容政策をおこない、<sup>(A)</sup>帝国化した。イランとイラクにおいては、西チャガタイ＝ハン国出身のティムールによって1370年にティムール朝が開かれ、14～15世紀におけるトルコ＝イスラーム文化の中心国として栄えた。ティムール朝が滅亡したのちのイランでは、<sup>(B)</sup>イスマーイールが16世紀初めにサファヴィー朝を建国し、<sup>(C)</sup>シーア派を国教とした。<sup>(D)</sup>ティムール朝やサファヴィー朝の歴史のなかでは、<sup>(E)</sup>遷都によって複数の都市が首都となったが、特にサマルカンドやイスファハーンは世界有数の大都市として繁栄した。

トルコでは、1300年ごろに基礎が築かれたオスマン帝国が、<sup>(F)</sup>独自の統治制度に基づき領土を広げ、1453年にはビザンツ帝国を滅ぼすなどして、<sup>(G)</sup>ヨーロッパ世界に脅威を与えた。オスマン帝国はスレイマン1世の治世に最盛期を迎えたが、17世紀終盤から18世紀にかけてゆるやかな衰退期に入ったため、<sup>(H)</sup>近代化がおこなわれるようになった。

インドでは、16世紀初めにティムールの子孫であるバーブルによって<sup>(I)</sup>ムガル帝国が築かれた。ムガル帝国では、タージ＝マハルなどの建築物をはじめとする独自のインド＝イスラーム文化が発展したが、18世紀初めに皇帝アウラングゼーブが没したのちは<sup>(J)</sup>衰退し始めた。

問1 下線部 (A) について、イスラーム諸国による異民族への寛容政策に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 初期イスラーム世界では、非ムスリムの被征服民はズインミーとして、アターの支払いを条件に、一定の自治や信仰の自由が保障されていた。
- b. 15世紀のティムール朝は、ギリシア正教、アルメニア教会、ユダヤ教の各教徒にミットを形成させ、貢納の義務を条件に、一定の自治を与えた。
- c. 16世紀のオスマン帝国では、メフメト2世が、フランス商人の経済活動に対して、領事裁判権などの通商特権を与えた。
- d. 16世紀のムガル帝国では、皇帝アクバルが非ムスリムのジズヤを廃止し、ヒンドゥー教徒の王女と結婚するなど、宗教融和政策を進めた。

問2 下線部 (B) について、ティムール朝に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ティムールは、フビライ＝ハンの後継者を称し、モンゴル帝国の再興を目指した。
- b. ティムールは、オスマン朝のスルタンであるムラト1世をアンカラの戦いで破って捕虜にした。
- c. 君主ウルグ＝ベクが天文台の建設を命じるなど、宮廷では学芸が栄えた。
- d. ティムール朝はシーア派ムスリムである遊牧ウズベクの侵入によって、16世紀初頭に滅亡した。

問3 下線部(C)について、サファヴィー朝に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 建国時のサファヴィー朝の思想的母体となったのは、サファヴィー教団と呼ばれる神秘主義教団であった。
- b. サファヴィー朝の初代君主イスマーイールは、ペルシア語で王を意味するスルタンを自任した。
- c. イスマーイールは、モンゴル系遊牧民キジルバシュの支持を得てサファヴィー朝を建国した。
- d. アッバース1世は、ホルムズ島からオスマン帝国を追放し、サファヴィー朝の最盛期を築いた。

問4 下線部(D)について、イスラーム世界におけるシーア派とスンナ派に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. シーア派国家であるファーティマ朝は、カイロにアズハル学院を設立した。
- b. シーア派の協力を得ながら樹立されたアッバース朝は、建国後はシーア派の保護をおこなった。
- c. スンナ派は、ムハンマドの言行が記録された『コーラン』を生活の規範とし、共同体の統一を重視した。
- d. スンナ派は、ムハンマドの従弟ムアーウィヤとその子孫を正統なカリフとみなす一派である。

問5 下線部(E)について、近世イスラーム諸国において、遷都の対象となった都市と遷都の順序に関して、適切なものを1つ選べ。

- a. ティムール朝：アンカラ→サマルカンド
- b. オスマン帝国：コンスタンティノーブル→アドリアノーブル
- c. サファヴィー朝：タブリーズ→イスファハーン
- d. ムガル帝国：デリー→カーブル

問6 下線部(F)について、オスマン帝国の統治制度に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. オスマン帝国では、トルコ系騎士に征服地の徴税権を認める、イクター制と呼ばれる軍事封土制度がみられた。
- b. オスマン帝国は、イスラーム教の少年に訓練を施し、イエニチェリと呼ばれる歩兵常備軍を組織した。
- c. イスラーム教の両聖都であるメッカとメディナを獲得したセリム1世は、スルタン＝カリフ制をとり、スルタンを世俗と宗教の両権威を束ねる者と位置づけた。
- d. 18世紀以降のオスマン帝国では、徴税請負権や独自の軍隊をもつアーヤーンと呼ばれる地方名士の台頭がみられた。

問7 下線部(G)について、オスマン帝国の対ヨーロッパ戦争を、起きた順に正しく並べたものを1つ選べ。

- ① 第一次ウィーン包囲
  - ② ニコポリスの戦い
  - ③ プレヴェザの海戦
  - ④ モハーチの戦い
  - ⑤ レパントの海戦
- a. ②—④—①—③—⑤
  - b. ②—④—①—⑤—③
  - c. ④—②—①—③—⑤
  - d. ④—②—①—⑤—③

問8 下線部 (H) について、オスマン帝国の近代化に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 「チューリップ時代」と呼ばれる18世紀前半のオスマン帝国では、ヨーロッパ文化への反発が高まり、イスラム独自の近代化が図られた。
- b. マフムト2世は、軍事近代化に成功した一方で、ムハンマド=アリー率いるワッハーブ王国への対応を迫られた。
- c. 第二次ウィーン包囲後のカルロヴィッツ条約において、オスマン帝国は、敗戦国としてオーストリア・ポーランド・ロシアに領土を割譲した。
- d. セリム3世はニザーム=ジェディットを組織するなどして軍隊の西洋化に取り組んだが、イエニチェリの反発を招いた。

問9 下線部 (I) について、ムガル帝国に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 皇帝バーブルの側近アブル=ファズルは年代記『バーブル=ナーマ』を執筆し、バーブルの皇帝権の正統性を主張した。
- b. 初期ムガル帝国で広まったシク教の創始者カビールは、偶像崇拜とカースト制を否定して人類の平等を説いた。
- c. ムガル帝国では、公用語のペルシア語がインドの地方語と融合してできたウルドゥー語の使用もみられた。
- d. 皇帝アウラングゼーブは、タージ=マハルの建築を命じ、またムガル帝国の領土を最大とするなど、帝国の最盛期を築いた。

問10 下線部 (J) について、ムガル帝国の衰退に関連する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 皇帝アウラングゼーブの治世では、シヴァージーがシク王国を建て、ムガル帝国と対立した。
- b. 皇帝アウラングゼーブの死後、デカン高原にニザーム王国が成立するなど、ムガル帝国の分裂が進んだ。
- c. ムガル帝国のベンガル太守は、プラッシーの戦いで敗北したことにより、徴税権(ディワーニー)をイギリス東インド会社に奪われた。
- d. インド人傭兵シパーヒーがムガル皇帝に対して起こした反乱はイギリス軍の介入を招き、ムガル帝国の衰退につながった。

Ⅲ 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

19世紀の欧米諸国では、工業化の進展によって、経済活動が拡大し、社会に大きな変化がもたらされた。工業化の進  
行は人口を急増させ、都市への人口集中を引き起こした。(A)

人口の移動は農村から都市だけでなく、世界各地に広がっていった。とくにアメリカは19世紀後半にはイギリス・  
ドイツをしのいで世界最大の工業国となっていたこともあり、世界中から多くの移民をひきつけた。こうした世界規模  
の移動が可能になった背景には、交通手段の発達があった。(B)(C)(E)(D)

また、資本主義が発展し競争が激しくなると、ヨーロッパから世界各地へ原料を求めたり、商品を輸出したりするた  
め非ヨーロッパ地域に市場を求める動きが起こった。アジアでは、ヨーロッパ諸国がインド・東南アジア・中国へ進  
出し、植民地支配をおこない、現地を混乱させた。(F)(G)(H)

アフリカでも、ヨーロッパ諸国による植民地獲得競争が起こった。この結果、アフリカ大陸のほとんどが植民地支配  
のもとにおかれた。アフリカ諸国が植民地支配から独立するのは、1960年代まで待たなければならなかった。(I)(J)

問1 下線部(A)について、19世紀イギリスの工業化にともなう現象に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1824年に労働者の結社を禁ずる団結禁止法が制定された。
- b. リヴァプールは製鉄業・機械工業の中心的工業都市として栄えた。
- c. 不衛生な生活環境の中、コレラが大流行し、多数の死者が出た。
- d. イギリスの社会主義者サン＝シモンは児童労働を制限する工場法の制定に貢献した。

問2 下線部(B)について、19世紀にアメリカが領土を拡大していく過程での出来事を起きた順に正しく並べたものを1つ選べ。

- ① アメリカ＝イギリス戦争が起こった。
  - ② アメリカ＝メキシコ戦争が起こった。
  - ③ 先住民強制移住法を制定した。
  - ④ テキサスを併合した。
  - ⑤ ルイジアナを買収した。
- a. ①—②—③—④—⑤
  - b. ①—②—④—⑤—③
  - c. ⑤—②—①—③—④
  - d. ⑤—①—③—④—②

問3 下線部(C)について、19世紀イギリスの自由主義的な改革に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1838年に普通選挙や秘密投票などを掲げる人権宣言が発表された。
- b. 1863年に奴隷解放宣言が出された。
- c. 1870年に初等教育を整備する教育法が制定された。
- d. 1884年にディズレーリ内閣が第3回選挙法改正をおこなった。

問4 下線部(D)について、19世紀後半のドイツにみられる統一に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. プロイセン＝オーストリア戦争の結果、プロイセンが小ドイツ主義に基づくドイツ統一を進めた。
- b. プロイセンが中心となってドイツ関税同盟を結成した。
- c. ビスマルクはカトリック勢力との融和を進め、宗教的統一をおこなった。
- d. フランスとの戦争に勝ったプロイセンは、シュレスヴィヒ・ホルシュタインを獲得した。

問5 下線部(E)について、アメリカに向かう移民に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1840年代から東欧・南欧系移民が急増し、アメリカの重工業の発展を支えた。
- b. 1840年代半ばのジャガイモ飢饉によって、多くのイタリア人がアメリカに移住した。
- c. 1840年代終わりに、カリフォルニアで金鉱が発見されると移民が増加した。
- d. 1882年に、日本人を排斥対象とする移民規制法が制定された。

問6 下線部(F)について、ヨーロッパ諸国がアジアでおこなった貿易に関する記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. イギリスは産業革命で生産を伸ばした綿製品を中国に輸出することで、本国の茶の需要の増大による輸入超過を解消した。
- b. オランダはヨーロッパ市場で需要の高まったコーヒー・砂糖などを生産するため、ジャワ島に強制栽培制度を導入した。
- c. フィリピンへ進出したスペインはマニラを開港し、サトウキビ・タバコ・マニラ麻などの商品作物を栽培した。
- d. イギリスはマレー半島へ進出して錫<sup>オウ</sup>開発をおこなった。

問7 下線部(G)について、インドにおけるイギリスの植民地支配に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. イギリスは、19世紀初めにインド南部で、農民に土地所有権を認めて直接地税を徴収するザミンダリー制という徴税制度を導入した。
- b. イギリスの東インド会社は、インドのシャンデルナゴル・ボンダイシェリに拠点をおいて交易し、インド社会を支配した。
- c. 1877年に成立したインド帝国は、宗教やカーストの違いによってインド人同士を対立・分断させる分割統治を採用した。
- d. イギリスは、インド帝国の成立を受けて東インド会社を解散し、本格的な植民地支配に乗り出した。

問8 下線部(H)について、東南アジアにおけるヨーロッパ諸国の支配に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. タイは、イギリスとオランダの勢力均衡によって東南アジアで唯一植民地化をまぬがれた。
- b. 1883～84年の天津条約によって、ベトナムはフランスの保護国となった。
- c. ビルマは、コンバウン朝がイギリスとの戦争で滅ぼされ、1886年にインド帝国に併合された。
- d. ラオスはフランスの保護国となり、1887年にフランス領インドシナ連邦に組み入れられた。

問9 下線部(I)について、アフリカの植民地分割に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ドイツは、ケープタウン・カイロ・カルカッタを結びつける3C政策を進めた。
- b. イタリアは、1880年代にソマリランド・リビアを獲得した。
- c. ビスマルクが提唱して開催されたベルリン会議は、ドイツ皇帝の私有領としてコンゴ自由国の設立を認めた。
- d. フランスは、1880年代から90年代にかけてチュニジア・ジブチ・マダガスカルを支配した。

問10 下線部(J)について、植民地支配されなかったアフリカの国を1つ選べ。

- a. エチオピア
- b. エリトリア
- c. モロッコ
- d. モザンビーク



## IV

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

総力戦となった第一次世界大戦では、様々な新しい兵器が用いられ、世界各地に甚大な被害をもたらした。1919年に結ばれたヴェルサイユ条約においては、<sup>(A)</sup>ラインラントの非武装地帯化や<sup>(B)</sup>ドイツの軍備制限について定められ、1920年には国際平和維持を目的とする初めての本格的な国際機関として<sup>(C)</sup>国際連盟が発足した。<sup>(D)</sup>戦間期においては<sup>(E)</sup>軍備縮小を目的とした会議が繰り返し開催され、その成果の一部は条約として結実した。

第二次世界大戦においても、初めて原子爆弾が投下されるなど、膨大な数の犠牲者が出た。戦後も、<sup>(F)</sup>冷戦を背景に、米ソをはじめとする各国が<sup>(G)</sup>核兵器開発競争を繰り広げた。しかし、1955年にジュネーブ4巨頭会談が開催されると<sup>(H)</sup>緊張緩和(デタント)が進み、<sup>(I)</sup>軍備縮小に向けた試みが始まる。特に<sup>(J)</sup>米ソの間では核兵器を制限する交渉がおこなわれ、一定の成果を上げた。

問1 下線部(A)について、イーブルの戦いで初めて用いられた兵器を1つ選べ。

- a. 機関銃
- b. 戦車
- c. 戦闘機
- d. 毒ガス

問2 下線部(B)について、非武装地帯化されたラインラントと国境を接しない国を1つ選べ。

- a. オランダ
- b. ベルギー
- c. フランス
- d. オーストリア

問3 下線部(C)について、戦間期のドイツの人物に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. スパルタクス団の指導者であったカール＝リープクネヒトは、ミュンヘン一揆を主導したが失敗し、逮捕された。
- b. 社会民主党の党首であったエーベルトは、国民議会によって大統領に選出され、ヴァイマル共和国の初代大統領となった。
- c. シュトレーゼマンは、 Rentenマルクを発行するなど経済再建に努めたが、世界恐慌が起こると賠償金の不払いを宣言した。
- d. ヴァイマル共和国第2代大統領となったヒンデンブルクは、再選を目指した大統領選挙でヒトラーに敗れて退陣した。

問4 下線部(D)について、国際連盟に付属する機関として設置されたものを1つ選べ。

- a. 国際労働機関
- b. 常設仲裁裁判所
- c. 万国郵便連合
- d. 世界保健機関

問5 下線部（E）について、戦間期の国際会議や条約に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. ワシントン海軍軍備制限条約は、アメリカの主力艦の総トン数をイギリスやフランスと同等とすることを認めた。
- b. ロカルノ条約は、ヴェルサイユ条約によるドイツの軍備制限を撤回し、ドイツの国際社会復帰の道を開いた。
- c. 不戦条約（ブリアン・ケロッグ条約）は、国際紛争解決のための戦争を禁止するとともに、その違反に対しては国際連盟による制裁が課せられると定めていた。
- d. ロンドン会議（1930年）では、日本の補助艦艇の保有比率をアメリカやイギリスに比して7割程度に抑えることが決定された。

問6 下線部（F）について、原子爆弾の開発に成功した時期が早い順に国を正しく並べたものを1つ選べ。

- ① イギリス
  - ② ソ連
  - ③ 中国
  - ④ フランス
- a. ①—②—③—④
  - b. ①—②—④—③
  - c. ②—①—③—④
  - d. ②—①—④—③

問7 下線部（G）について、冷戦期の東西対立に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. マーシャル=プランのもとでは、ソ連の影響を排除することを目的に、主として東欧諸国に対して支援がおこなわれた。
- b. 共産党の情報交換を目的として組織されたコミンフォルムには、ソ連や東欧諸国のほか、フランスやイタリアの共産党も参加していた。
- c. 北大西洋条約機構は、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、西ドイツなど12カ国によって設立された。
- d. ワルシャワ条約機構は、西側諸国を仮想敵国とする東側諸国の軍事同盟であったが、東西ドイツの統一と同時に解散した。

問8 下線部（H）について、核兵器の開発や制限に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. アメリカが委任統治領であったビキニ環礁でおこなった水爆実験は、日本漁船の乗組員に被害を与え、原水爆禁止運動のきっかけとなった。
- b. ラッセル・アインシュタイン宣言を踏まえておこなわれたパグウォッシュ会議には、湯川秀樹ら科学者が参加した。
- c. アメリカ・イギリス・ソ連が調印した部分的核実験禁止条約は、大気圏内及び大気圏外の空間での核実験を禁止したが、水中及び地下での核実験は禁止しなかった。
- d. 核拡散防止条約はすでに核兵器保有国となっていた国の核兵器保有を認めているが、ソ連は冷戦終結まで署名しなかった。

問9 下線部（I）について、1970年代の緊張緩和に関連する事項として最も適切なものを2つ選べ。

- a. 新思考外交
- b. 全欧安全保障協力会議
- c. 東方外交
- d. ブレジネフ=ドクトリン

問10 下線部（J）について、米ソの核軍縮に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1969年から始まった第1次戦略兵器制限交渉（SALT I）では、米ソの大陸間弾道ミサイル（ICBM）の保有数を大幅に制限することが合意された。
- b. 1972年から始まった第2次戦略兵器制限交渉（SALT II）は、アメリカのベトナム軍事介入を批判するソ連の離脱により合意に至ることなく終了した。
- c. 軍事費削減を目指すゴルバチョフ書記長は、1987年にレーガン大統領と会談し、中距離核戦力（INF）全廃条約に署名した。
- d. 1991年に署名された第1次戦略兵器削減条約（START I）は、同年のソ連解体により、発効することなく破棄された。

[以 下 余 白]

